

乳房炎会から

乳房炎 Q & A

日常の診療で生産者の方々と話をしていると、病気について質問をされる場面が数多くあります。今回は乳房炎関連の質問の中からいくつかについて、この紙面を借りて答えたいと思います。以前のかげはしで紹介されている内容もありますがご了承ください。

Q 1. 分娩前から漏乳しているのですが、どうしたらよいでしょう。

A 1. 分娩が近づくとつれ乳房が張り、乳頭口も緩んできて細菌が乳房内に侵入しやすい状態となります。漏乳している状態をそのままにしておくと乳房炎になるリスクが一層高くなりますので、その場合には迷わず搾乳することを薦めます。搾った生乳は比重・濃度が充分であれば初乳として利用できます。凍結保存して、分娩したら解凍して使用します。ただし、漏乳して時間が経っているものは免疫グロブリン量が低下しており、初乳の効果が期待できないので注意が必要です。解凍時は温度に注意します。自然解凍またはぬるま湯でゆっくり解凍することが必要です。解凍時の温度が高いと、初乳中の蛋白質である免疫グロブリンが変性して免疫賦活効果を失ってしまうからです。

起立不能が心配な場合は、前もってビタミン D3 を投与する、搾乳を開始したら経口 Ca 剤を投与するなどを行うとよいでしょう。また、漏乳がない場合でも乳頭のディッピングをすると乳房炎の予防になります。

Q 2. 親牛が乳房炎だったり起立不能で初乳がない場合はどうしたらよいでしょう。

A 2. 乾乳軟膏を使用しているでも乾乳後半から分娩前後にかけての乳房炎を予防する効果はないため、分娩直前になって乳房炎が発見されることがよくあります。分娩前に乳房炎になっている乳房を発見した場合、その乳房は完全に搾り切って泌乳期と同様の治療を実施します。そのため初乳がとれない場合もありますから、日ごろから余った初乳を凍結保存しておくとい

しょう。母牛が起立不能が搾乳できない場合にも活用することができます。凍結初乳がない場合は初乳サプリメントを利用するなどの対策も必要でしょう。凍結初乳の融解方法は前述のとおりです。

Q3. 毎年寒くなると乳頭に凍傷ができ乳房炎が増えてしまいます。これから冬期間に入りますが、どのように対応したらよいでしょうか。

A 3. 黄色ブドウ球菌（SA）など伝染性乳房炎が問題となっている牛群ではポストディッピングで欠かせません。しかし冬期間にディッピング液が乾かないことが原因で乳頭に凍傷ができ、却って乳房炎が増えてしまうという問題は確かに存在します。しかしここでディッピングをやめてしまうと、夏場せっかく実施してきた乳房炎対策が無駄になってしまいます。冬期間はディッピング液が乾くのに10分くらいかかるので、厳寒期には、ディッピング後30秒くらいでペーパータオルで拭き取って乾燥させることもよいようです。

乳頭に凍傷ができてしまった場合には、ローションタイプの乳頭保護材やファースト軟膏、イソジンゲルを使用して治療します。

Q4. 副乳頭を簡単に取る方法について教えてください。

A 4. ある程度成長が進んでから気づくこともある副乳頭ですが、大きくなってから取るのは大変です。早いうち程簡単にとることができます。紛らわしい場合にはどれが本物だ？と迷うこともあります…。生後7日齢以内での副乳頭除去は無麻酔で実施できるようです。もし出生直後に副乳頭があることに気づいたら、その時に取ってしまうのがよいようです。切るべき乳頭をしっかりと保持し鋏で切除して、臍の消毒と一緒に切除した部分を消毒します。切除以外にも、輪ゴムや糸で基部を縛って脱落させる方法もあります。副乳頭といえ将来泌乳能を有して乳房炎分房となる場合もありますので、副乳頭は早いうちにとってしまうのがよいでしょう。

（標茶支所西部家畜診療課 山本 康了）

